

北海道保健福祉部長 就任ご挨拶



北海道保健福祉部長
石川 久紀

北海道医師会におかれましては、飯塚会長をはじめ、会員の皆様には、日ごろよりこの広い北海道において、道民の医療確保と健康増進のため、ご尽力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

さて、本道においては、全国平均を上回る少子・高齢化の進行をはじめ、生活習慣病の増加などに伴う疾病構造の変化、さらには人々の価値観が多様化し、健康や暮らしの安全、心の豊かさを重視する傾向が強まるなど、保健医療福祉を取り巻く環境が大きく変化してきています。

また、制度面においても、平成12年度に創設された介護保険制度が施行後5年を経て改正され、加えて、障がいのある方が地域で自立した生活を送ることができるよう新たに障害者自立支援法が施行されたほか、医療制度を将来にわたり持続可能なものとするため、国において医療制度改革が議論されるなど、その枠組みが大きく変わろうとしています。

こうした変化に対応し、北海道保健医療福祉計画の目標である「だれもが、住み慣れた地域の中で、健やかに、いきいきと自立して暮らすことができる社会の実現」を目指すためには、市町村をはじめ関係機関・団体、道民の方々との連携と協働のもとで、当面する課題に対処し、地域の実情に応じた保健医療福祉施策の総合的な展開を図る必要があります。

当面する課題の中で、医療提供体制の確保につきましても、貴会をはじめ、三医大

などのご協力のもと、平成16年に北海道医療対策協議会が設置され、医師確保が困難な地域の医療機関に対する医師派遣（紹介）などに大きな役割を果たしてきているところではありますが、今年度は、さらに一層の医師確保対策の充実を図るため、本協議会に「地域医療を担う医師養成検討分科会」および「自治体病院等広域化検討分科会」を新たに設置し、地域枠と連動した奨学金制度の創設や地域における機能分担や広域連携の推進方策の検討を行う予定であります。

また、誰もが安心して暮らしていく上で、救急医療体制の充実が重要な課題のひとつであり、道としてはこれまで、初期から三次にわたる救急医療体制の整備に努めてきたところですが、近年、小児に特化した救急医療体制の整備に対する社会的要請が強まってきていることなどから、初期救急を補完する小児救急電話相談事業や小児救急医療支援事業などの実施により小児救急医療体制の整備を図っているところです。

道としては、保健医療福祉計画に基づき、道民ニーズに的確に対応することのできる基盤づくりを着実に進めてまいりますので、一層のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、現行の計画は、平成19年度で計画期間が終了するため、今年度から新たな計画の検討を開始していくこととしています。医療制度改革など新たな要素が数多くありますので、医師会の皆様方とも十分意思疎通を行い、よりよい医療提供体制を構築できるよう努めて参りますので、重ねてご協力をお願いいたします。

最後になりますが、皆様のさらなるご活躍とご健康を心からお祈り申し上げ、就任のご挨拶といたします。